青牛式トレードマスター講座

主戦場の決定とダウ理論の重要性

トレードを学ぶ上でまずやるべきことは、主戦場とする（波を抜き取る）時間足を一つ決めること。

なぜなら、それを決めていなければ行先も決めずに裸のまま広く深い相場という海に飛び込むことになり、どこに向かっていいかも分からないうちに溺れてしまうばかりか、実戦への対応としてわざわざマルチタイムフレーム分析を取り入れる意味がないからです。

ただ、マルチタイムフレーム分析を追求してきた私からすると、チャートを分析する現在の感覚としては、「単一の時間足からは状況を認識することはできても、あくまでマルチタイムフレームで統合しなければそのセットアップ自体の優位性は全くといっていいほど判断できない。」というような感覚です。

つまり、日足レベルで買いのセットアップが整っていても、下位足を見なければ動き出す正確なタイミングは分からない。

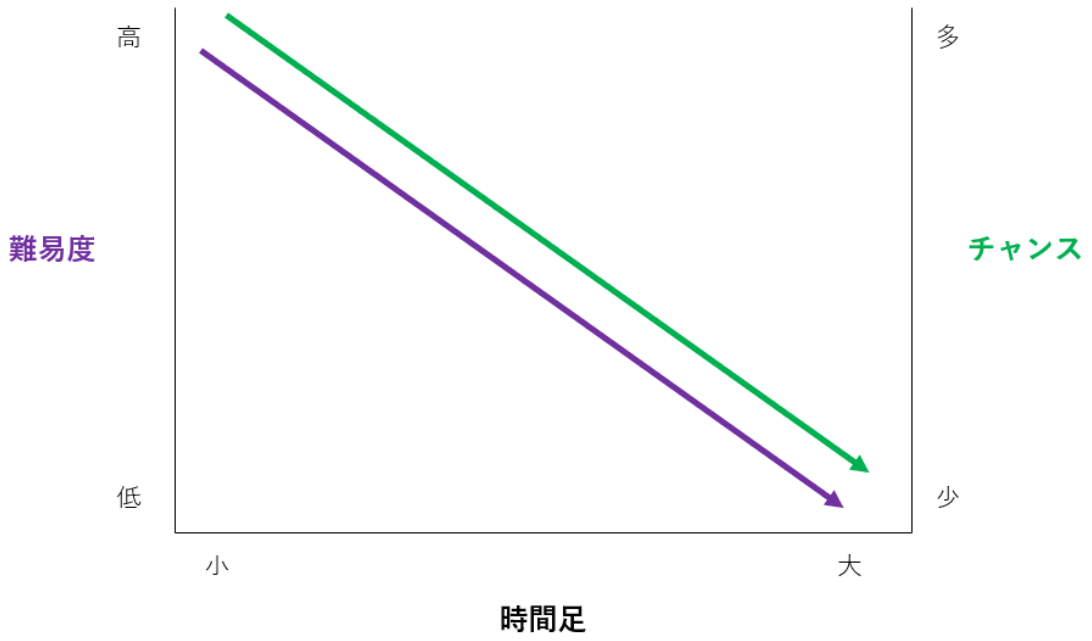
　または、下位足で買いのセットアップが整い、プライスアクションからして今すぐにでも動き出しそうだと判断できても、上位足を見てどういう環境で下位足のそのセットアップが起こっているかを判断しなければ、ストップをギリギリまで絞り込むようなリスクリワード何十倍といったトレードはできない。

　ザックリではありますが、これが私の相場に対する世界認識です。

　ただ、一つの時間足でのセットアップ自体に大した優位性はないとはいうものの、当然、大きい時間足になるに比例して単一時間足での優位性も「月足＞週足＞日足・・・・・5 分足＞1 分足」という具合に上がっていきます。

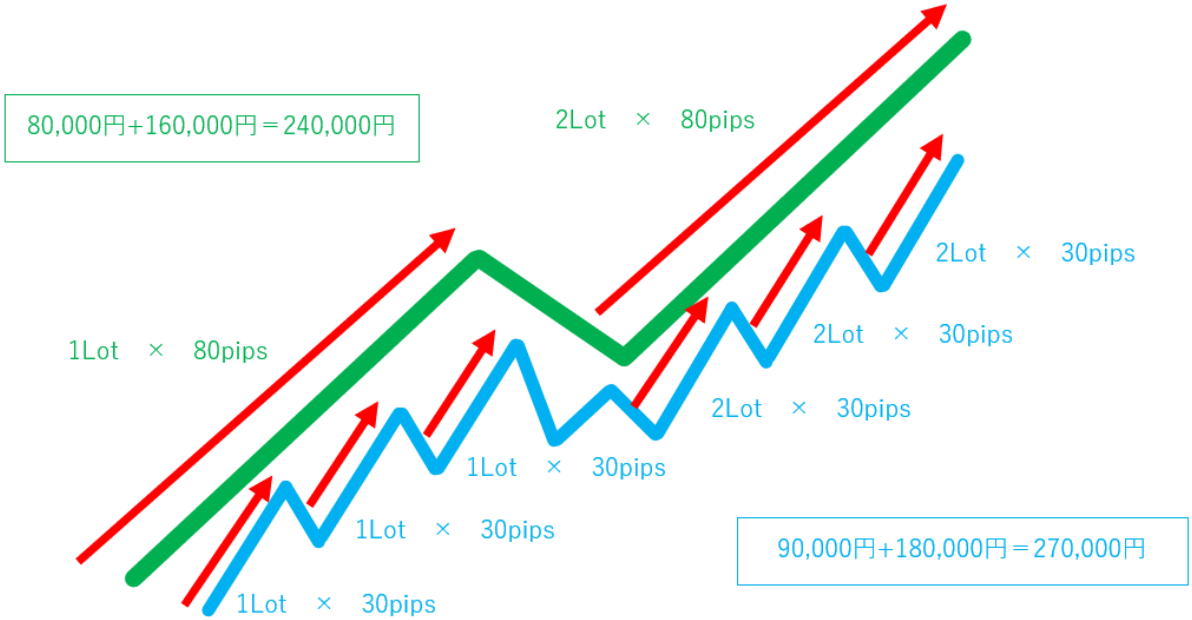
　では、月足だけで、週足だけで、日足だけで取引すればいいのでは？と思うかもしれませんが、結論から言うとそれでも全然問題ありません。

　ただし、時間足が大きくなるほどチャンスも減り、何より FX が持つ「レバレッジ×時間」という最大の優位性を生かすことができなくなってしまいます。



つまり、資金が多ければ多いほど打ち込めるロットサイズが大きいため、トレード回数自体を少なくすることができますが、資金が少ないのであれば、取引回数を増やし、資金の回転を上げなければ効率的に口座残高を増やしていくことはできません。

また、これには時間と利益率という考え方も関係していて、分かりやすくまとめると次のようになります。



※実際の相場では、青い波はもっと波打っているため機会と利益は多くなります。

つまり、大きい時間足の１つの波を捉えるよりも、大きい時間足の１つの波に内包される小さい時間足の複数の波をレバレッジを活かしながら抜いていった方が効率良く資金は増えていくということです。

そして、これらをトータルで考えた時に、どの時間足が最も自分に合っているのかということは自分自身で考えるしかありません。

なぜなら、あなたの性格や感性はあなたにしか分からないからです。

大きいロットで小さく抜くのか。

小さいロットで大きく抜くのか。

はたまた大きいロットで大きく抜くのか。

伸びるまでの含み損に耐えられるのか。

一旦の調整で含み益が大きく減ることに耐えられるのか。

チキン利食いになってしまうのか。

死ぬまで握り潰す握力があるのか。

ビビってロットを張れないのか。

引きつるくらいのロットをぶち込めるのか。

それはあなたが実際に経験してみて初めて分かることで、他人が判断できることではありません。

ただ、「少額から増やしていくにはどうすればいいのか」というコンセプトに対しては、別のコンテンツで解説していますので、そこから暫定的な最適解を導き出してください。

つまり、

大きい時間足であれば、難易度は下がるけどチャンスは少ない。

小さい時間足になるほど、チャンスは多いが難易度は高い。

このどこに着地させるかは自分で考えてください。

これを自分の頭で考えずして、「何を学べばいいのか分かりません」という議論は成立しません。前提が違うのですから。

何から学べばいいのか分からないという人は次のように進めてください。

1　どの時間足を主戦場とするのかを決める

2　自分の鉄板となるパターンを決める

この鉄板パターンは、自分の中で仮説を立てそれを追求してください。

鉄板パターンは何がいいですか？などという考えを持っているようなら今すぐトレードをやめてください。残念ながらあなたにトレードは向いてい

ません。そういう考え方のあなたが安易に取り組み、大きな痛手を喰らう前に諭す私の最大限の優しさと受け取ってください。

また、テクニカル分析の基礎を学びたいという方は、「先物市場のテクニカル分析」という書籍を１冊読めば十分ですが、チャートパターンをいくつも覚える必要は全くありません。

数ある中から得意なパターンを１つだけ見つければ十分です。

オシレーターも無理して入れる必要はありませんし、強いて言うならばボリンジャーバンドだけ入れておけば十分です。可変要素は少ないほどいいのですから。

とにかく、無駄に知識を詰め込む必要はありません。

情報収集に勤しむ大衆、つまり９割はただの頭でっかちで、本当に勝っている人というのは驚くほどシンプルに相場を捉えているというのが持論です。

正直、私自身、ボリンジャーバンドやEMAの仕組みなど、雰囲気が９割でイマイチ分かっていません。そんな程度です。

いいですか。

とにかく可能な限りシンプルに考えてください。

売りなのか、買いなのか。

どちらかに限定した方が間違いなく結果は早く出ます。

ダブルボトム、ダブルトップ

トリプルボトム、トリプルトップ

ヘッドアンドショルダー

リバースヘッドアンドショルダー

レンジ

中段保合いの様々なパターン

もう何でもいいです。

この中から一つを決めて、ただひたすらそれを極めるだけでいいのです。

そして、そのパターンが機能する確度を上げるためにマルチタイムフレーム分析をするのです。

ここまで説明してきた内容は、学習を始める前段として非常に重要なことですから、しっかりと理解して進んでください。

では次に、相場参加者であれば誰でも知っているダウ理論について説明していきますが、相場における基礎知識は色々とありますが、私はダウ理論さえ「本当に、本当に、本当に」しっかりと理解できていれば、それで十分だと考えています。

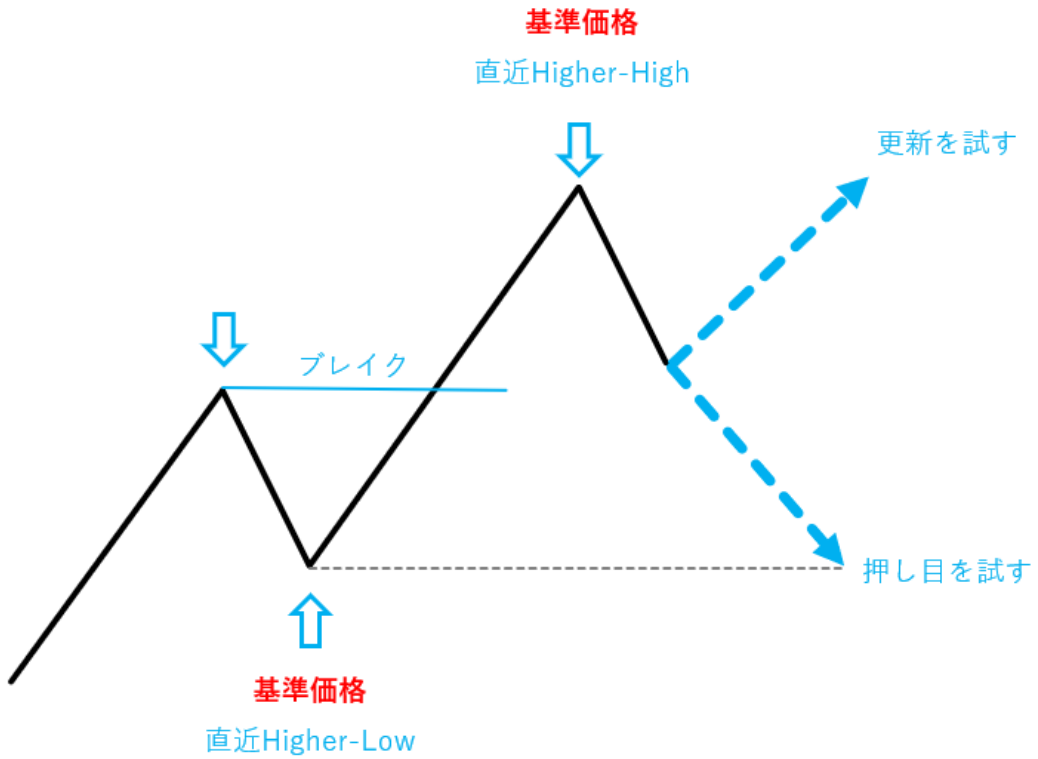
なぜなら、ダウ理論は相場における最も基本となるルールであり、人がそれを基に取引する以上、普遍的に通用する概念だからです。

派生するチャートパターンは数あれど、根幹となるパターンはダウ理論ですから、ここをしっかりと抑えておけばまず大丈夫ですし、それ以外は必要ありません。

むしろ、結果が出ない人の多くは、インディケーターやオシレーターに魔法の設定数値がないか、勝てるインディーケーターはないか、複雑難解なチャート分析にこそ秘密があるのではないか、などに奔走してばかりで基本となるダウ理論を表面的な価格配置としてしか捉えていないのでしょう。

ダウ理論が成立するということは、新たな基準となる価格が形成されるということであり、つまり脳の認知機構が新たな価値として認識することによって売買が起き、値動きとなっていきます。

つまり、ダウ理論上の重要な価格＝押し目となる価格、戻り目となる価格は値動きの基準となっていて、その基準となる価格に向かって値動きは進んでいくと私は捉えています。



言い換えると、相場は常に基準となる価格を求めて動いていて、その基準となる前提がこのダウ理論だということです。

では、具体的な区分をみていきましょう。

上昇トレンド

高値を切り上げ、安値も切り上げる。

ダウントレンド

高値を切り下げ、安値も切り下げる。

レンジ

高値と安値がある程度、定まりつつも

値動きに秩序がない状態。

上昇のトレンド転換

安値更新した起点の戻り高値を上抜き、

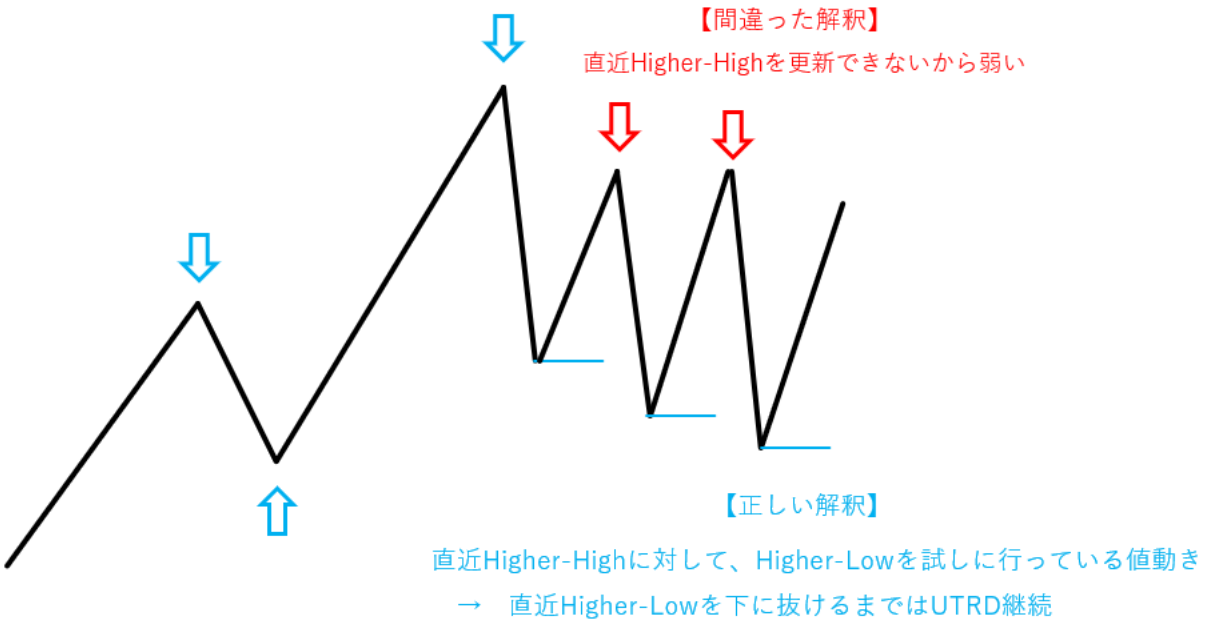
なおかつ安値を切り上げる

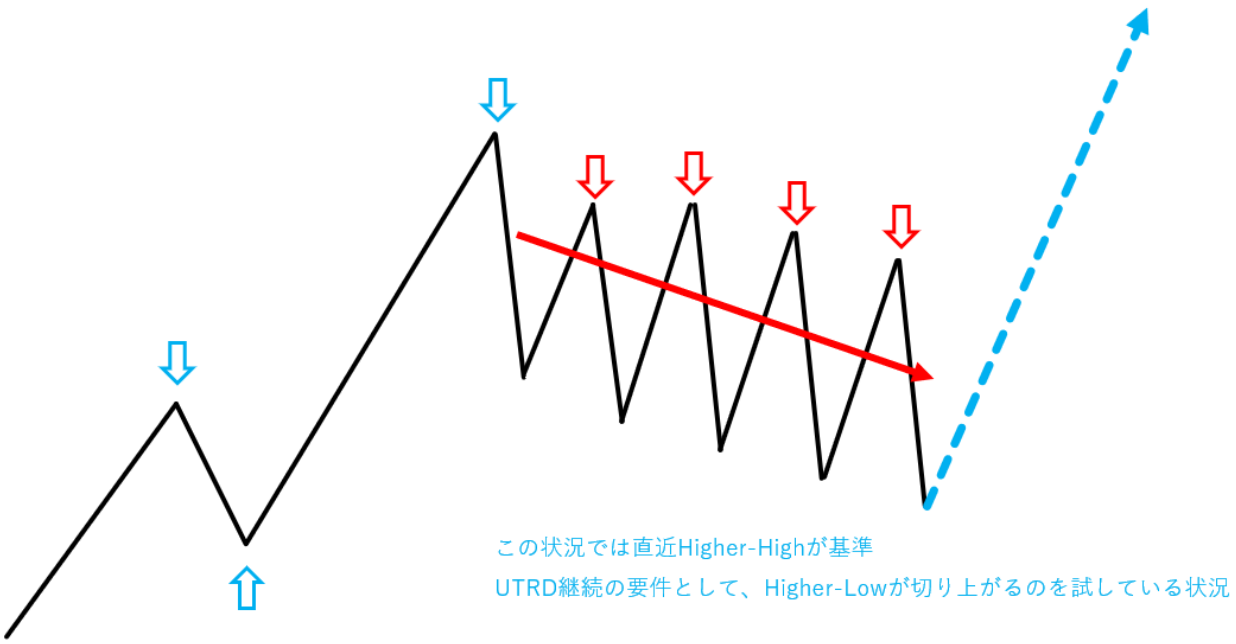
下落のトレンド転換

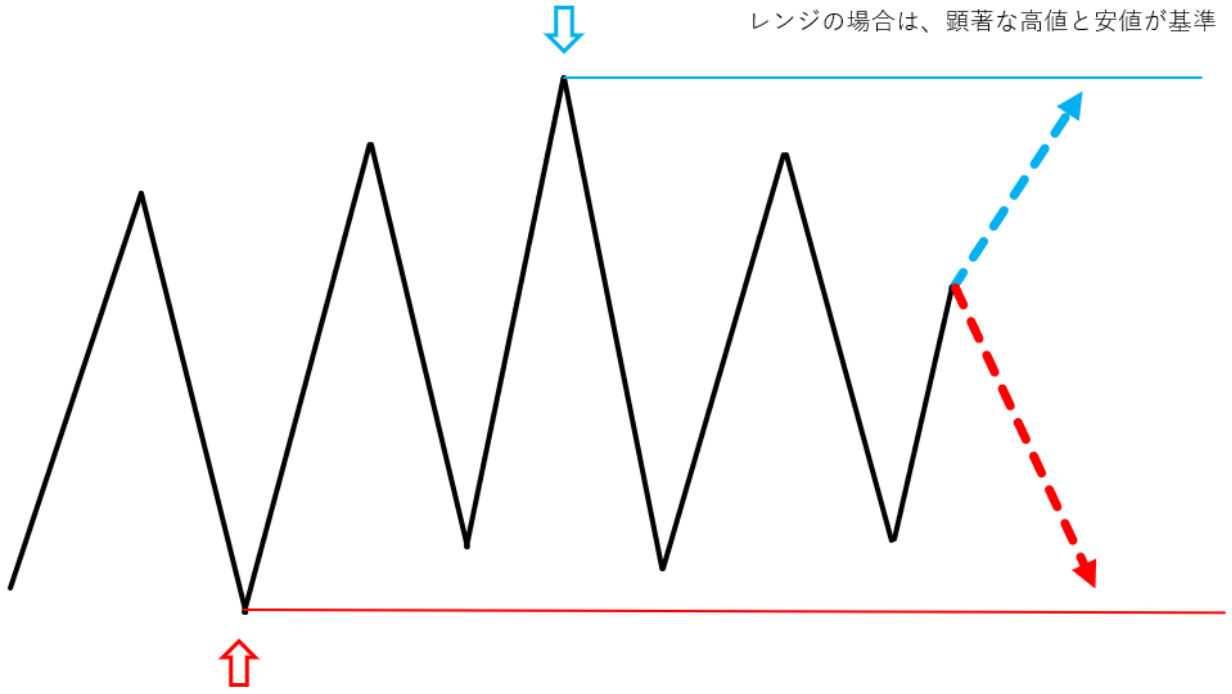
高値更新した起点の押しの安値を下に割り、

なおかつ高値を切り下げる

そして、ダウ理論の価格配置を認識する上で非常に重要な点は、「その価格が次の価格更新の起点となったか」ということ。







これは非常に重要なポイントですから現在の価格配置に迷いがある場合は、

現在の価格の起点となっている価格は価格更新のスタート地点となっているか

を判断材料としてください。

また、これらの高値安値を認識する上で、「直近の価格」が意識されること

はトレードバイブルに書いてあるとおりなので、合わせて読み込み落とし込ん

でください。

このダウ理論も一つの時間足で捉えれば極めて単純なものですが、他のコンテンツでも説明しているように、単純なものだからこそそれが複数になった時の組み合わせは無限になります。

それを言い出してしまうと結局、マルチタイムフレーム分析に行き着いてしまうわけですが、前述のとおりまずは、主戦場とする一つの時間足でこのダウ理論を「明確」に把握できるようにしましょう。

そして、一つの時間足で厳密にダウ理論が把握できるようになった時に、それが機能しない「矛盾」が生じる場面が出てきます。

そこには往々にして上位足の影響がありますから、そこで初めてマルチタイムフレーム分析の必要性を実感するでしょう。

また、ローソク足の形状として私は、「ハンマー（ピンバー、下ヒゲ）」をテクニカルシグナルとして利用していましたが、今となっては、そのテクニカルシグナルとなるローソク足が形成される段階でエントリーしていくことが多いので、そういった視覚的なシグナルを気にしなくなっています。

つまり、全体を全体のまま統合して捉える。

そして、その前提がダウ理論です。

ダウ理論は非常にシンプルな理論ですが、だからこそ奥が深いため、この考えを絶対に蔑ろにしてはいけません。

シンプルなものこそ奥が深いとはよく言われますが、このダウ理論もまさにそういった類の性質のものだと思います。

「一つの時間足でのダウ理論の把握であれば絶対に誰にも負けない」と言える精度を追求し続けましょう。

そうすれば必ず結果はついてきます。

今回は、あえてこのようなコンテンツを作りましたが、

「何をやればいいのか分からない。」

「今の自分に何が足りないのか分からない。」

この答えを自ら導き出せないようであれば、トレードはやるべきではありません。

なぜなら、相場で生き残っていくためには、常に試行錯誤しながら自分で考え抜いて対応してく姿勢が求められるから。

それをスタートの段階で自ら白旗を振っているようでは、相場の世界に飛び込む資格はありませんから、しっかりと自問してください。

いずれにしても、最低限のインプットは必要とはいうものの多くの情報は必要ありません。

そして、その最低限の情報もダウ理論を含め、この講座のコンテンツで十分だと考えています。

詰めるだけ詰め込んだら、あとは捨てるだけです。

最後にあなたの手の中に残っているものが、自分の手によって削り出されたオーダーメイドの形です。

表面的な形や言葉の丸暗記ではなく、自身の本質を追求しようとする姿勢そのものを磨いていくことで、世界認識の精度を上げていきましょう。

そうすれば、人と全く同じチャートを見ていても、あなたというフィルターを通して生み出される結果は、必ずあなたを満足させてくれるでしょう。

ありがとうございました。

あをうし